

えびなっ子 ニュース 通信

- 発行 -
よしのり
わたべ美恵後援会
海老名市中央3-3-13・1102
TEL: 046-235-6908
E-mail: watabe@juno.dti.ne.jp
平成14年12月5日発行

ごあいさつ

海老名市議会議員 渡部 美恵



こんにちは。わたべ美恵です。みなさんの暖かいご支援に支えられ市政の場において日々全力投球しております。市政運営は、想像以上に複雑かつ多岐であり、さまざまな角度から検討を重ねながら運営されています。しかし、行政に対する市民の不満はいつになっても尽きないのはなぜでしょうか？それは現状分析が甘かったり、市民ニーズを捉えていなかったり、前例踏襲的な発想など、時代の変化とスピードに付いていけず、みなさんが求める行政の姿と実態にズレが生じてしまっていることが大きな原因であると感じています。この「ズレを直す」ところが、議員としての重要な役割であると認識しています。このズレを直すには、その原因となっている行政を変えること、



行政改革に推奨するにあたり、数ヶ月にわたり「私案」を作成し、職員

行政改革に推奨するに
あたり、数ヶ月にわたり
「私案」を作成し、職員

平成13年
9月定例会

機構改革について

前号以降の一般質問より

「行政改革」がいわゆる「行政改革」が必要で、議員の主張の場である一般質問は勿論のこと、普段の議員活動においても、職員の意識改革、機構改革、運営手法や発想の転換、市民ニーズの捉え方などを積極的に質し、経営的発想を基本に行政内部の改善に努めたいと考えています。一方、われわれ市民には何もかも「行政任せ」の時代から卒業する時期が近づいてきていること

先端意識をもち大胆な改革を

は、来たるべき地方分権時代をもっと意識しなければいけないという考えから、ある文献を引用し、今までの国、県、市町村といった流れの中での「末端」という意識ではなく、「先端」という意識をもつべきであると指摘しました。

この考え方は、高度成長時代には大企業が下請け、孫請けといった構造をもち、産業の先進役を

時代に即した改革を

内部検討による機構改革では、あまりにも職員の間が見えすぎてしまい、現状の域を脱しきれないことから、時代に即した機構改革にはアウトソーシングという手法も取り入れるなど、時代のスピードに即した改革が必要であることを指摘しています。

統括職の設置による責任の明確化を

政治的判断の的確化という、視点からも機構改革を推奨しています。市長の任務と責任は、海老名市政を左右に動かす、海老名市民の運命を背負った重職です。その任を的確に行うには、適切な判断材料がなければなりません。その判断材料が縦割り組織、不明確な責任体制都合のいいことだけ報告されがちなりリスク管理が欠如したままで、市長に本当に適切なものとして伝わっているのかという疑問を投じました。

そこで、「私案」をもとに的確な政治判断が出来る体制づくりの一環として、縦割り組織の軽減



企画立案能力の強化を

現在、国の行政改革の中で公務員制度改革が検討されています。

現状は国家公務員を対象とした制度ではありませんが、近い将来地方公務員に対しても同様の制度が導入されると思われます。

国家公務員と地方公務員、それも県と市町村では仕事の内容も異なるため一概にすべて同じとは言えないものの「国の制度が決まってから取り組

む」のではなく、現段階から先取りした体制作りが必要と考えます。

その公務員制度改革の中で、組織については「機動的・弾力的な組織定員管理」「目標に基づく業務推進」そして「企画立案と執行それぞれの機能強化」があげられています。

海老名市でも「企画立案・政策作成能力、調査研究力」の強化は重要でありかつ急務と考え、機

構改革において対応すべきと提案しています。

その対応策として「総合企画部」の創設のほか、前出の各3部門において「常に将来を見据えて、調査研究、政策作成」を専門とする企画部門を設け、政策力、調査研究力の強化すべきと考えています。

政策主導の行政運営になれば、機動的な組織が必要であり、そこには、実際に必要な能力をもった者の採用、若手の抜擢も可能であると考えます。

海老名駅周辺開発について

多様なアイデアを生かし、

全国のモデル駅に

海老名駅周辺開発は、交通結節点改良事業と小田急開発が同時に行われる、官民一体によるまちづくりです。行政と民間が共に協力し、努力と工夫を結集し、全国的にも注目される「モデル駅」になるようさらなる努力を要望しました。

市長は、駅前開発を「夢のような話」から「夢のある話」と表現さ

れました。

そのためにも、バリアフリーの促進、ロマンスカーの停車は、勿論のこと

万全な防災対策を

年間来場者1700万人を想定した、小田急開発は市内では始めての大規模商業施設開発です。災害時には過去の経験にはない、不測の事態が起

と小田急開発を担当した北山創造研究所がもつ、多彩なユニークなアイデアをお借りするなど、映画祭や海老名市民祭など市民の夢が膨むイベントや企画を展開するよう要望しています。

こらなとは限りませんが、市民に限定されるならまだしも、近隣周辺の土地事情、施設状況など、いわゆる土地感のない不特定大多数を抱えて、災

剣道を通じて



櫻武館、海老名高校、神奈川大学で学んだ剣道がすべてのことにおいて私の基本となっています。サラリーマン時代は仕事に追われ稽古から遠ざかっていましたが、議員となり「常に初心を振り返る」ためにも、議員活動の合間を利用し稽古をしています。

学生時代以来15年ぶりに昇段審査を受験しました。受験にあたっては幼い頃からご指導いただいた先生方、高校・大学の先生、先輩方にさらなるご指導をいただき、五段に昇段することができました。「礼儀」「気力」「体力」「集中力」厳しい稽古をしたもののみが勝ち得る「自信」。それは生涯を通じてその人の柱になるものと信じています。「厳しさの中から自信が生まれ、自信をもつことによって感動を味わう、そしてはじめて本当の感謝を知る」。剣道ばかりではありませんが、子どもの頃からこのような機会に触れることは、変えがたい経験であると感じています。私は青少年健全育成の原点がここにあると考えています。

防災面からも

中部地区公園の促進を

第三次総合計画の実施計画における、市役所周辺を候補地とする「中部地区公園整備事業」計画は、海老名駅周辺を核とするまちづくりが姿を現し始めた今、大規模災害の発生時には、重要な役割を担い出すことが想定されます。

災害時における、行政としての避難誘導体制、小田急との連携計画、救急体制、市民のために確保されている備蓄関係へ

割を果たすものと想定されます。

現状の公園整備事業としての位置付けだけではなく、「防災」という視点を加味し、事業推進と早期実現を求めています。

また、周辺自治会は地域住民のほか駅周辺の来場者への対応も余儀なくされることから十分な指導と体制作りを要望しています。

防犯防災について

(仮称)生活安全条例の

制定について

海老名市は、発展とともに、物騒な事件も増加傾向にあります。

そこで、「生活安全条例」を制定し、防犯ならびに事件抑止効果の観点から、開発時から防犯を考慮した行政指導、ならびに警察からの指導助言協力を得られるような取り組みが必要であると指摘しました。

さらに、犯罪増加の背景には被害者のちよっと

した注意や犯罪の知識があれば防げたものも多く、「自主防犯意識」の高揚により、その軽減、抑止効果が期待されています。

条例を制定し、市民、行政、警察の連携をさらに強め、市民と協働による犯罪の防止のまちづくりを展開するよう求めています。



自販機を利用した 防災掲示場の設置を



防犯情報、活用次第で市政連絡、広報にも活用できるものです。

総合運動公園にて

自動販売機等を活用した広報システムの導入を提案しています。このシステムは、電光掲示板つき自動販売機とホケルのシステムを連携させ、火災、災害情報、

自動販売機は市内に点在していることから、市民への周知機能は高く、また、パンザマストではカバーできない聴覚障害者への対応、聞こえづらい地域への補助的システムとしても有効です。

また地域ごとの情報提供も可能であり、自治会情報、学校情報など地域の連携、親しみを育てていく効果も期待できます。設置にあたっては、民間、いわゆる自動販売機を設置している企業や組

35歳時人間ドックの導入を

当市の人間ドックや健康診断の助成制度は35歳からとなっています。

代は自分の身体にまだ過信しがちであり、仕事面でも充実期であることから検査に時間をかけないこと、さらには、生活費的にも決してゆとり

合などの理解と協力を得ることによって、少コストで協働による防犯、防災、広報活動の向上が図れると想定され早期導入を推奨しています。

があるわけではなく、「大丈夫だろう」という気持ちも手伝い後回しにしがちです。しかし生活習慣病は低年齢化しており、若くして病をわずらう方も増加している事から、35歳時での人間ドック助成制度の導入を提案しました。

若いうちからの健康管理は今後の高齢化社会における医療費、介護保険料の負担軽減につながるばかりではなく、元氣な高齢者は地域における子

健康と福祉について

ども達への「教育力」の増大にもつながっていきます。

このように健康管理の啓発促進のみならず、将来的な効果や期待を含め提案しています。

平成14年4月から人間ドックの助成は35歳以上となっています。是非ご活用ください。

保険料の6段階設定の検討を

世の中はものすごいスピードで変化し、市民ニーズも日々刻々と変化しています。刻々と変化する市民ニーズを的確に捉え、調査・研究し、適切なサービスを提供することが行政の努めであることはいまでもありません。そこで、施行1年半を経過した介護保険に関して、刻々と変化する市民ニーズをどのように捉え、調査・研究し、どのような対策が今後のサービス

に適切かといった検討をされているのかを質すとともに、法令上認められた中で、または合法的な解釈の枠内で最大限の効果を生み出す検討をすることが大切かと考え、横浜市などで導入されている保険料の6段階設定への取組みを求めました。

現在平成15年度に行われる、保険制度見直しに向け検討が進められています。

平成14年 3月定例会 一般質問

人づくり・協働への 取り組みと課題について

「人づくり」は始ったばかり

亀井市長の基本姿勢である「人づくりこそまちづくり」はまさに、これからの行政運営、市政運営の真髄と考えます。

私が職員の意識改革、さらには機構改革について機会あるごとに提案してまいりましたのも、その重要性を認識しているからであります。

しかし、この「人づくり」は「言うのは簡単やるのは大変」というものばかりで、その重要性は

市民との協働は感性とやる気

市民との協働に向けた動きが見られるようになってきました。

しかし、私が感じるには、まだまだ形式だけの「市民参加」「協働」の域から脱し切れていない部

その実行となると極めて難しいこの基本姿勢を実現目標と具体的な行動策を示し、その成果が確たるものと感ぜられるまでは「初志貫徹」、責任をもって取り組むよう求めています。

響、職員も多く見受けられます。その原因は職員一人一人が人を動かす「関心をもちたせる」ため

にはどうしたら良いかという感性の欠如と、頭の中だけで先々の結論まで

P T A会長を終えて



P T Aの熱意と地元自治会の理解と協力で実現した信号機の設置(国分寺台第1バス停付近)

平成13年度、海老名小学校のP T A会長を務めさせていただきました。

P T A活動はもちろんのこと、学校が抱える問題や課題、最近批判されがちな先生方がどれだけ子ども達のために苦勞されているかなど、母親任せになっている我が子が通う学校を身近に知ることができ、大変有意義であったと思っています。

会長を務めるにあたり、まずは学校の中身を良く知ること。任せきりになっている先生方の考え方を知ること。そしてとかく学校内の活動に終始しがちなP T Aを地域の一人として活動をするよう心がけて取り組んでまいりました。

たくさんの方々の活動の中で、特に印象深いのは「子ども110番の家設置」や「通学路改善要望」などを通じ、お母さん方の子ども達への愛情と熱意、そして、子供たちに対する「温かい心」が地域の中にたくさんあることを実感したことです。

先生方をはじめ、一緒に活動してきた役員さんに支えられ任期を終えられたことを心から感謝するとともに、この貴重な経験を議会活動にも活かしていきたいと思っています。

人づくりは市民に対しても

行政サイドの人づくりと共に、市民のなかでの人づくりもしなければいけません。そのためには、地域での土壌づくりが必要です。地域の育成や人づくりは、将来の行政運営を大きく左右するといっても過言ではありません。そこで・・・



職員の信頼と専門性

導きだしてしまつた前例踏襲、一番面倒な「汗をかき、現場の中に入り込み、具体的な対応を試し、市民の反応を感じてみる」努力を惜しんでいるからであると指摘し、机上で結論を得るのではなく、

「動いてみる」「動かしてみることが大切である」と職員姿勢を質しています。さらに職員の志気を高めるための機構改革、役職定年制度の有効的活用を求めています。

市民との協働を築き上げる上で、市民と職員間の信頼関係を重視し、職員の専門性の向上が大切

であると感じています。そこで自ら体験した、消防署における普通救命講習受講時の感想から、

自治会支援の見直しを

最近の自治会離れは地域活性化、地域教育力、協働を推進する市政運営に大きな支障をきたすものと考えています。

自治会加入率は83〜84パーセント代とほぼ横ばいで推移していますが、その実態は、昔と違い「人と人」、「気持ちと気持ち」はとも希薄になつてきています。自治会に無関心、また非協力的な考え方として、「時間のある人がやればよい」、「役員は大変だ」とか「ゴミカレンダーは市役所に取りにければいい」など、個々の都合のいい理由で、自治会の存在すら、否定されがちです。これは、過去、大き

消防職員が奮り高ぶることなく日頃、現場や訓練で身につけた自信をもつた指導に対し、市民は素直な気持ちで職員と接し、大きな信頼を寄せ、日頃の訓練に対し感謝の念をいだかざるをえなかったとの例をあげ、市民が行政に対して信頼と感謝を感じるには、それだけの専門性が必要ではないかと指摘し、職員の専門性の向上、市民の接し方についての向上を求めています。

PTAも協働の担い手

小中学校の保護者は、子育ての現役として、我が子のために日頃、教育や環境、交通安全、防災や防犯など、子ども達を守り、安心・安全かつ、すこやかに育てるために、個々の思いを絶えず張り巡らせています。

PTA役員のほとんどは、当初、「くじ引きでも感じています。そこで、自治会の存在意義、行政としての関わり方、組織や活動推進の方法を見直し、時代にあった推進方法に行政も転換すべきであると指摘しました。

大災害や事件事故など「いざ」というとき、普段関係ないと思つていた「隣人」があなたを助けてくれるのです。「いざ」というときがいつ来るかはわかりませんが、「いざ」という時、助けてくれる隣人に普段から「お世話になります」という気持ちを持てるような地域作りが「自治会の存在意義」であると考へ、「防災」をテーマに

努力している自治会を紹介しています。この地域は年々の活動を通じて、自ら自治会の存在意義というものを見つけ、あるべき姿に向かって取り組んでいます。しかし、すべての自治会が自ら存在意義を見出していき事は大変な努力であり、さらに地域住民に理解を得られるようするには、とても大変な事です。これを地域にただ

地域の縦割り管理の解消を

行政組織が縦割りゆえ、個々の地域活動をも管理しやすいように、縦割り組織をつくっています。自治連、市P連、市青健連、市子連など...。情報の共有化を図るために連絡協議会と称してまとめたものが、地域内での交流を分断しているのではないかと感じています。これは協働を進める上で大きな障害です。行政が協働をうたう以上、行政が協働をうたう以上、行政が協働を進める上で大きな障害です。

い、目を見張るほどの連携と結束力、そして行動力。事業を進めれば、進めるほどその力は力強いものになっていきます。しかし、残念なことに毎年毎年展開されるこのパワーも、ほとんどが1年限りであり、人材とそこに詰め込まれたノウハウはPTAのみならず、地域や市政には役立てる

こともなく、影を潜めてしまっています。私は、このPTA活動の中には、「人が動く」「人を動かす」という協働に向けて取り組む行政としては学ばべき材料が豊富にあると感じ、教育委員会のみならず、市長部局においても協働の担い手として関心を持ち取り組むよう提案しています。

市内企業も協働のパートナー

市内企業は長引く景気低迷で厳しい経営状態がつづき、さらに公共投資の縮小も手伝わって、海老名市に対する愛情も薄れつつある減少を指摘しています。

に着手するよう求めています。公平公正を基本とする行政運営では難しい研究ですが、近い将来行政運営の主流となるPFIや入札のプロポーザル方式採用時には効果あるものと考え、提案しています。

行政組織が縦割りゆえ、個々の地域活動をも管理しやすいように、縦割り組織をつくっています。自治連、市P連、市青健連、市子連など...。情報の共有化を図るために連絡協議会と称してまとめたものが、地域内での交流を分断しているのではないかと感じています。これは協働を進める上で大きな障害です。

市内企業は長引く景気低迷で厳しい経営状態がつづき、さらに公共投資の縮小も手伝わって、海老名市に対する愛情も薄れつつある減少を指摘しています。しかしこの不況の中でも海老名に愛着をもちつづき、市や市民に貢献している企業があります。このような企業の市政に対しての協力や貢献度、提案や情報提供などを評価する新たな制度の研究

平成14年9月議会の一般質問は次号でご報告致します。